伊賀市男女共同参画センター情報紙

きらきら

2025 春号

第76号

今、ひとりひとりが…

History

「桜梅桃李」という言葉が好き!
それぞれ可憐に咲き使命を果たしながら人々の心を和ませてくれる花・花・花。
一人ひとりが今、居る場所で自分らしく生き、自分らしく「きらきら」と輝いていける21世紀でありたい…。

Contents

●令和７年度 女性法律相談
●TOPICS：女性が地方を去る理由
●防災こころ笑カレッジとは？
●*心を癒す　アートセラピー*

男女共同参画フォーラム

いきいき未来いが 2025

自分を愛すること、生きること　～言葉のちからの大切さ～

2025 7/5 土

12:00～15:45
伊賀市文化会館

講演会

「今、ここを生きる」

言の葉語り

木村　まさ子さん

いのちをいただくことを意識して食べること、子どもの心に届く言葉を親が語りかけること、言葉にはみえない力があり、自尊心を育む力がいかにたいせつかを伝えています。

12：00～　いきいき交流広場
13：30～　開会
　オープニング
　上野高校　ギター・マンドリン部
14：00～　講演会
15：40　フィナーレ

入場無料
申込不要

手話・要約筆記
ヒアリングループ完備
無料託児(6/15 まで要申込)もあります♪
下記までお電話下さい。

いきいき交流広場

販売　野菜・お菓子 パン・花など
展示　活動紹介 展示など
体験　生け花 歌など

男女共同参画ネットワーク会議会員、障がい者就労支援施設のみなさん、地元高校生(あけぼの高校、伊賀白鳳高校)による、物産の販売や展示などを実施します！

ご来場の際はお車の乗り合わせにご協力お願いします。

発　　行　（令和７年５月１日発行）

伊賀市　人権生活環境部　人権政策課
〒518-0873　三重県伊賀市上野丸之内 500 番地
TEL(0595)22－9632　FAX(0595)22－9666
メール　jinken-danjo@city.iga.lg.jp

編　　集
伊賀市男女共同参画センター情報紙「きらきら」
編集スタッフ
岡　久美子 ・ 竹山　佐代子 ・ 的場　裕子
矢野　美幸　（担当）正井　尚美 ・ 前田　詩乃

女性弁護士による

女性法律相談（完全予約制）

▼相談 HP

市内の女性を対象に、離婚・親権・養育費・DV 等、さまざまな悩みを法的に解決するために女性弁護士による相談を行っております。相談は Zoomを利用したオンライン相談形式で実施しており、**無料**でご利用いただけます。また、**秘密は厳守**いたしますので、安心してご相談ください。

■令和7年度　相談日程

実施日		時間	予約受付間
2025/4/9	(水)	◇4 枠 ◇1人30分間 ・13:20～13:50 ・14:00～14:30 ・14:40～15:10 ・15:20～15:50	3/24(月)～4/4(金)
2025/5/14	(水)		4/28(月)～5/9(金)
2025/6/11	(水)		5/26(月)～6/6(金)
2025/7/9	(水)		6/23(月)～7/3(木)
2025/8/6	(水)		7/22(火)～8/1(金)
2025/9/11	(木)		8/25(月)～9/5(金)
2025/10/8	(水)		9/22(月)～10/3(金)
2025/11/12	(水)		10/27(月)～11/7(金)
2025/12/10	(水)		11/25(火)～12/5(金)
2026/1/14	(水)		12/22(月)～1/9(金)
2026/2/12	(木)		1/26(月)～2/6(金)
2026/3/11	(水)		2/24(火)～3/6(金)

※原則１人１回限り、30 分以内の相談です。スムーズにご相談いただけるよう、電話予約の際に相談内容の聞き取りをいたします。

※センター職員が同席いたしますので、ご了承ください。

■ **場所 ： 伊賀市男女共同参画センター**（ハイトピア伊賀4階）相談室

■ **申込 ： 0595-22-9632** までご連絡ください。

TOPICS　part　53　女性が地方を去る理由

2023 年度の総務省の調査によると、近年、地方から都市への転出が増えており、特に 20 歳から 24 歳の若い女性が多く転出していることが明らかになりました。また、男性と比べて女性は地元に戻ってこない傾向が高く、この 10 年間で 30 以上の都道府県で男性より女性の方が多く転出していることがわかりました。

地方を離れて都市へ移る理由として、「就職先の選択肢が豊富であること」「やりがいのある就職先の存在」が多く挙げられています。地方では自分がやりたい仕事が見つからないことが多く、これが都市部への転出を選ぶ大きな理由となっています。しかし、これだけではなく、女性が都市へ移動する理由として「女性の役割」を求められる生きづらさから逃れたいという声も少なくありません。

例えば、「仕事の有無に関わらず、家事は必ず女性が行うもので男性はやらなくて良いという暗黙の了解がある」「東京に就職することを親や親戚に伝えたときに、『女はそんなに一生懸命働かなくていいよ。それよりはいい人見つけて早く結婚して』と言われた」といった女性の声が多く挙げられています。

こうした地方におけるジェンダーギャップの存在が、女性たちにとって都市部への転出を選ぶ大きな原因となっていることがわかります。

2019 年の伊賀市の調査でも、特に「社会通念・慣習・しきたり」のなかで、男女不平等を感じている人が多いという結果が出ています。

女性や若者にとって暮らしやすい環境にするためには、雇用の問題を解決するだけでなく、ジェンダーギャップを解消することが不可欠です。

まずは、私たち一人ひとりが、身近なところで性別という属性によって役割を押し付けていないかを振り返ってみることが住みやすい地域をつくる一歩となるのではないでしょうか。

女性防災サポーター養成連続講座

防 災 こころ笑 カレッジ とは？

この講座は、いつ起こるかわからない災害に備え、男女共同参画の視点から防災・減災について学ぶ講座です。

災害時に抱える困難やニーズは性別や立場によって違いますが、意思決定の場に女性が少なく、女性の声が反映されにくい現状があります。そのため、身近なところからジェンダーを見つめ直し、さまざまな視点の意見が取り入れられるようにこの講座を行っています。

第1回

過去の災害の事例から、性別・立場によって被災の状況に違いがあることを学びました。

第2回

東日本大震災の経験から、防災になぜ女性の視点が必要なのかを学びました。

第3回

グループワークで、避難所運営をする上でどのような配慮が必要かを話し合いました。

第4回

実際に消防本部を見学し、消防職員から現場でのお話や女性消防団のしのび小町の皆さんに防災グッズの作り方などを教えて頂きました。

第5回

グループにわかれ、実際に大規模災害が発生したと想定して HUG（避難所運営）ゲームに挑戦しました。

防災こころ笑フレンズ 第5期生誕生！

第5期目の今年度は、9 名の修了生が誕生しました！
次年度の開催は広報いが6月号に掲載予定ですので、
ぜひお気軽にご参加ください！

講座を受けての感想(一部抜粋)

・地域（自治会等）で防災訓練に生かして行きたいと思います。万が一の災害が起きた時も率先して動きたいと思いました。
・身近な問題として再確認させてもらいました。何かしらの備えやルールをある程度考えておくことの必要性を感じました。ありがとうございました
・若い力が欲しいです。若い方に沢山受講してもらいたいです。

心を癒す　アートセラピー

～様々な創作活動を通じて心の健康を促進する心理療法～

何度も貼り直して
一番のお気に入り
ができました

家にある封筒を
貼って推しの写真
を入れてもいいね!

簡単で
実際にやってみたら
楽しく癒されました

(番外編)
親子で会話を
しながら作るのも
楽しかった

一人の編集員が伊賀市主催の「アートセラピー講座」を受講した話を聞いて、楽しそう!!気軽にできそう!!
とみんなで作ってみました。
無地のノートに自由にシールなどを貼るだけで私だけの一冊ができました。

100 均コーナーのシールにワクワク!!時間を忘れて素材選びをしている中で、家に眠っている
お気に入りもたくさん使えそうとイメージを膨らましワクワク!!
素敵な一冊が完成～✨。
皆で出来上がった作品？を見せ合って、和やかな会議になりました。
忙しい毎日でも少しの時間をアートセラピーをして過ごすのはいかがでしょうか…。

きらきら
今、ひとツ、ひとツ、ココロが…